

再評価調査

事業名	都市計画道路 枚方中宮線整備事業	事業主体	大阪府
所在地	枚方市 新町1丁目、岡本町、岡東町、大垣内町1丁目、大垣内町2丁目、及び宮之阪1丁目		
再評価理由	事業採択後10年を経過した時点で継続中		
事業概要	目的	現府道枚方富田林泉佐野線及び枚方茨木線は、歩車道の区分もなく歩行者、自動車の交通量も多く、交通安全上非常に危険な状態であることから、本路線を拡幅整備することにより、安全確保と交通渋滞の解消を図るものである。	
	内容	延長 1.1km (府道京都守口線～都市計画道路枚方津田線)	
		幅員 18.0m	
		道路区分 4種1級 2車線道路	
上位計画	なし		
関連事業	電線類地中化(電線共同溝整備事業)を同時に施行		
事業の進捗状況	都市計画決定	昭和32年3月30日(建設省告示第491号)	
	経過	事業採択年度(事業認可取得):平成3年	
		事業着手年度:平成3年	
		完成予定年度:平成15年度末	
	進捗状況	全体事業費:約87億円 (内、用地費 約69億円) 整備延長:1.1km	
投資事業費:約74億円 (内、用地費 約61億円) 整備済延長:0.8km			
進捗率:用地 96%(面積比)、88%(事業費比) 工事 79%			
一連の整備効果発現	慢性的な交通渋滞の解消と歩行者等の交通安全確保が図れる。		
課題	用地買収の推進		

事業目的に関する諸状況を巡る社会情勢の地域の変化等	交通量の変化	周辺道路の24時間交通量の推移			
	事業目的に関する諸状況を巡る社会情勢の地域の変化等	杉田口禁野線		国道170号	
		平成2年	16,402台/24h	39,415台/24h	
		平成6年	19,721台/24h	41,352台/24h	
	平成9年	19,528台/24h	39,038台/24h		
	事業目的に関する諸状況を巡る社会情勢の地域の変化等	当該路線の交通量、歩行者数及び交通事故数の推移			
		事業目的に関する諸状況を巡る社会情勢の地域の変化等	24時間交通量		歩行者数
			平成2年	20,659台/24h	1,551人/12h
			平成6年	23,882台/24h	2,399人/12h
	平成9年	21,016台/24h	2,594人/12h		
事業目的に関する諸状況を巡る社会情勢の地域の変化等	交通事故数 (枚方富田林泉佐野線 全線)		()内は当該路線		
	事故数		死者数		
	平成2年	48件/年	2人/年	59人/年	
	平成6年	57(15)件/年	0(0)人/年	66(15)人/年	
平成9年	51(8)件/年	0(0)人/年	63(9)人/年		
事業目的に関する諸状況を巡る社会情勢の地域の変化等	地域の開発状況	岡本町地区市街地再開発事業(平成2年完了)			
		中部土地区画整理事業(平成2年完了)			
		京阪本線連続立体交差事業(平成6年完了)			
	地元要望等	交通量の増大に伴う渋滞緩和並びに交通安全の確保及び中心市街地の活性化の観点から、枚方市及び地元住民より早期整備が望まれている。			
	地域の協力体制	用地買収については、地元市である枚方市に委託している。			
地域の事業と整合性の変化	平成4年11月に京阪電鉄枚方市駅周辺の連続立体交差事業の高架切替が全て完了したことにより、本路線の交通流が円滑となり、交通量が増加した。				
その他	交通量及び歩行者数の伸びに比べ、交通事故数の伸びが低く、交通安全に寄与する評価は高い。				

費用 便益 分析	具体的な便益内容			受益者	費用便益比	備考	
		<ul style="list-style-type: none"> 費用便益分析 走行時間の効果(走行時間の短縮) 走行経費の効果(時間短縮による走行経費の節減) 			・通行車輛	$B / C = 1.76$ 便益総額 B [検討期間内に発生する全ての便益を価格基準年の 価値に換算した金額] 総費用 C [当該計画道路の着手時から検討期間の最終年まで に発生する全ての費用を価格基準年の価値に換算 した金額]	・街路事業における費用便益分析マニュアル(案)、(建設省都市局街路課作成)により算出
事業 効果 の 定 性 的 評 価 等	大項目	小項目	効果の指標等	具体的な効果等		受益者	備考
	安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> 防災空間の確保 災害発生時の緊急輸送路、避難路の確保 歩行者の交通安全の確保 	<ul style="list-style-type: none"> 延焼防止率の向上 避難圏域の拡大(面積) 歩行者動線の確保 電線類地中化 	<ul style="list-style-type: none"> 幅員12m以上のため延焼防止効果が期待できる 現況8~12m⇒18mに拡幅されるため災害時の避難路(W=16m以上)となる 非連続性歩道⇒2.5mの両側連続歩道の設置による交通安全機能の確保 無電柱化により、円滑な歩行者動線が確保される 	<ul style="list-style-type: none"> 周辺住民 歩行者 通行車輛 		
	活力	<ul style="list-style-type: none"> 沿道土地利用の促進(高度利用) 地域間の交流・連携の強化 		<ul style="list-style-type: none"> 前面道路の拡幅により高度利用が促進される 歩行者動線の確保による東西両商店の利用機会の増大 	<ul style="list-style-type: none"> 周辺住民 歩行者 		
	快適性 (生活環境)	<ul style="list-style-type: none"> 都市空間の創出 騒音、振動等沿道環境への影響 	<ul style="list-style-type: none"> 緑化延長、歩行空間の拡大 都市景観の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 歩道：非連続性歩道⇒W=2.5mの両側連続歩道+W=1.0mの植樹帯 電線類を地中化することにより、無電柱化を図り、沿道景観を向上することができる 歩道及び植樹帯を設けることにより、車道端と民地との距離が広がり、騒音、振動等の影響は軽減される 	<ul style="list-style-type: none"> 周辺住民 歩行者 	周辺の整備状況 ・京阪本線連続立体交差事業(H6完了) ・岡本町地区市街地再開発事業(H2完了) ・中部土地区画整理事業(H2完了)	
	その他						
自然環境等への 影響と対策	<ul style="list-style-type: none"> 既成市街地のため、生態系に与える影響は微小 						
その他 特記すべき 事項							